

平成二十三年度 合併市町村住民組織 活性化支援事業

# 小国の名力士資料集



編集・発行 小国文化フォーラム

# すばらしき小国風土小国



## 柏戸宗五郎

文化7年(1810)現長岡市小国町上岩出の渡辺家に生まれる。小千谷の縮問屋西脇家に奉公し、住吉神社奉納相撲で強豪振りが認められる。江戸大相撲入りを決意し、六代目伊勢ノ海部屋へ入門。天保13年(1842)前頭四枚目に入幕。翌年柏戸宗五郎と名乗る。南部藩お抱えとなる。弘化2年(1845)前頭筆頭を最高位に引退する。後、七代目伊勢ノ海五太夫を襲名する。幕末から明治にかけて玉垣と共に相撲会所(今の相撲協会)を仕切る。明治の初め、危機に瀕した相撲界の復興に尽力する。同郷の弟子両国を育てる。明治18年(1885)協会を離れる。

明治19年3月2日死亡、77歳

## 六代両国梶之助

天保元年(1830)、現長岡市小国町小栗山の岩野家の農家に生まれる。14歳のとき栃木の醤油醸造元に奉公する。嘉永2年(1849)、従兄弟を頼って上京し、勝海舟の世話で佐久間象山塾に下男と塾生を兼ねて入門し、力士の道を志す。嘉永3年(1850)、初土俵。安政7年(1860)、十兩となり、六代目両国梶之助を襲名する。慶応2年(1866)河井継之助に面会し、長岡藩のお抱え力士となる。後土佐藩お抱え力士となる。幕末に外人レスラーと対決し破る。明治6年(1873)関脇在位のまま引退。引退後は年寄伊勢ヶ浜勘太夫として弟子の育成にあたる。

明治38年(1905)1月28日死亡、75歳。



合併市町村住民組織活性化支援事業

# 小国の生んだ名力士柏戸・両国を顕彰する会 結成記念講演会のご案内

●両力士を顕彰する会会長 大橋義治

山深い小国郷は幕末から明治にかけて二人の名力士を生み出した。上岩田出身の柏戸（1810～1886）小栗山出身の六代目両国梶之助（1829～1904）である。柏戸は前頭筆頭が最高位、引退後柏戸宗五郎改め七代目伊勢ノ海を襲名、同郷の弟子両国を育てる。両国は嘉永2年上京し、関脇が最高位。慶応2年江戸で河井継之助と面会、長岡藩お抱え力士となる。小国民俗資料館には、この二人のコーナーを設けてある。小国文化フォーラムでは平成17年相撲シンポジウムを開いた。また平成21年、二人の力士の顕彰活動を熱心に推進していた法坂の若井一正遺作展を開催した。それでもなおこの二人の力士は地元でも知らない人が多い。ここに小国の誇る二人の力士の業績を顕彰するために、新しい会を結成した。



記

柏戸  
上岩田出身(1810～1886)

両国  
小栗山出身(1829～1904)

- 日時 平成23年 8月6日(土) 午後2時
- 会場 小国商工物産館 小国町法坂
- 講師 新潟県相撲連盟顧問(5段位)・県相撲連盟史編纂委員長  
広井忠男氏
- 演題 素晴らしい相撲風土小国・越後の名力士達

講師プロフィール ひろいただお

昭和18年小千谷市生れ。早稲田大学 明治大学卒。新潟県議会副議長、青年会議所理事長、早稲田大学商議員などを経て、新潟県体育協会顧問、日本ベンクラブ会員。著書『越後柏崎郷花の相撲取り』（日本海企画社2002）『越後の野づらに相撲其句が流れる』（日本海企画社）『耐える鋼鉄 羽黒山物語』（新潟日報事業社 1997）など

- 連絡・申込先 長岡市小国町上岩田524-1 高橋実方 両力士を顕彰する会  
TEL 0258-95-2310 FAX 0258-95-5034 E-mail fqjfp577@ybb.nc.jp

辛酉年八月一日

参加申込 参加するものに○を付けてください。(8/1(月)申込〆切)

講演会に参加します ( )

顕彰会に入会します ( )

・住所

・お名前

・電話番号

